

ハートフルなんぶ

2022. 1月号 vol. 279

長野市立南部図書館

〒388-8006

長野市篠ノ井御幣川 1201 番地

TEL (026) 292-0143

FAX (026) 292-0559

<https://library.nagano-ngn.ed.jp/>

 あけましておめでとうございます 

本年も南部図書館をよろしく願いたします

1月のテーマ 「笑い」

- 『ナナメの夕暮れ』若林 正恭／著 文藝春秋 <779ワ>
『嘶家の女房が語る落語案内帖』櫻庭 由紀子／著 笠間書院 <779サ>
『めざせ！お笑い福祉士』笑福亭 學光／著 浪速社 <369シ>
『「わろてんか」を商いにした街 大阪』廣田 誠／著 NHK 出版 <779ヒ>
『ギャグ語辞典』高田 文夫／文 誠文堂新光社 <779キ>
『ゴミ清掃芸人の働き方解釈』滝沢 秀一／著 集英社インターナショナル <366タ>
『シニアのための大笑いクイズと大笑い健康体操』今井 弘雄／著 黎明書房 <369イ>
『シニアのための大笑い！マジック36』グループこんぺいと／編著 黎明書房 <369シ>
『笑ってなんぼじゃ！ 上・下』島田 洋七／著 徳間書店 <B779シ>
『笑いの日本文化』樋口 和憲／著 東海教育研究所 <382ヒ>



今月の 新刊案内

- 『舞風のごとく』あさの あつこ／著 文藝春秋 <Fア>
『ペッパーズ・ゴースト』伊坂 幸太郎／著 朝日新聞出版 <Fイ>
『砂に埋もれる犬』桐野 夏生／著 朝日新聞出版 <Fキ>
『かぞえきれない星の、その次の星』重松 清／著 KADOKAWA <Fシ>
『三国志名臣列伝 魏篇』宮城谷 昌光／著 文藝春秋 <Fミ>
『子のない夫婦とネコ』群 ようこ／著 幻冬舎 <Fム>
『高校事変 11』松岡 圭祐／[著] KADOKAWA <BFマ11>
『絶滅危惧動物図鑑』藪本 晶子／著 祥伝社 <049ヤ>
『デカルトはそんなこと言ってない』ドゥニ・カンブシュネル／著 晶文社 <135テ>
『日本列島地名の謎を解く』谷川 彰英／著 東京書籍 <291.01タ>
『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー 2』ブレイディみかこ／著 新潮社 <376フ2>
『心も体もととのう漢方の暮らし 365日』川手 鮎子／著 自由国民社 <490カ>
『大人の鉄道模型入門』松本 典久／著 天夢人 <507マ>
『Disney おうちでごはん』講談社／編 講談社 <596テ>
『タクシードライバーぐるぐる日記』内田 正治／著 三五館シンシャ <685ウ>
『大人が読むこどもの碁』丹野 憲一／著 ホビージャパン <795タ>
『コロナ時代の英会話』上田 麻鈴／著 イカロス出版 <837ウ>
『J.R.R.トールキンの世界』ジョン・ガース／著 評論社 <930ト>
『日本の歴史を描き直す』地方史研究協議会／編 文学通信 <N210ニ>
『星空教室 冬の星座』藤井 旭／著 誠文堂新光社 <Y443フ>



主な文学賞 2021

- 第165回 直木賞 『星落ちて、なお』 澤田 瞳子／著 文藝春秋 ≪F フ≫
 『テスカトリポカ』 佐藤 究／著 KADOKAWA ≪F サ≫
 第165回 芥川賞 『貝に続く場所にて』 石沢 麻依／著 講談社 ≪F イ≫
 『彼岸花が咲く島』 李 琴峰／著 文藝春秋 ≪F リ≫
 第18回 本屋大賞 『52 ヘルツのクジラたち』 町田その子／著 中央公論新社 ≪F マ≫

Essay

「殿様を笑わせた話」

寄稿：ひよこ豆

今年からちょうど400年前の江戸時代の1622年に、上田藩主だった真田信之公が松代に移ってきて松代藩主となりました。今で言えば長野市の多くの地域や小川村、あと千曲市の一部は松代藩領でした。

ある年の元日に、新年のあいさつをするため、松代の城に家臣たちが集まりました。その中の一人に見玉三助がいました。三助は大らかな性格で、狂歌(滑稽な面白みのある短歌)をたしなむ人でした。その日、正装している家臣たちの中で、三助だけは紙衣(かみこ)という服を着ていました。これは和紙で作られた粗末な服ですが着ると温かいのです。

その姿を見つけた信之は機嫌をそこね「まえから紙衣は禁止しているのに何で着てきたのか」と尋ねました。三助は「自分は身分が低く貧しいため、絹の着物はありませんので仕方なくこれを着ているのです」と答えました。そこで信之は少し考えて「貧しいというのもっともな理由だ。そういえばお前はたしか狂歌が得意だったな。今すぐに面白い歌を読んでみせたら金をくりょう(くれよう)」と命じました。すると三助はすぐに

いにしへの よろひにまさる紙衣には 風のいる矢も通らざりけり

と詠みました。紙衣は暖かくて風が通らないから鎧に勝るのだと。

これを聞いた信之は喜んで、三助に五両を与えました。ところが三助は、あまり喜ばずに「初めのお約束とはちがうなあ」とつぶやきました。それを耳にした信之は「これ三助、なにがちがうというのか」と尋ねると、三助がまた詠みました。

はじめには 金をくりょうと有りしかと その場になりてごりょうけんかな

初めは金を九両(金をくれよう)と言ったのに、その場になったら五両なのかな(ご了見=お考え)と皮肉ったのです。殿様相手にずいぶん大胆な歌を詠んだものですね。しかし信之はまた大笑いして、足りない分をあげようと三助に四両を与えたのでした。

松代藩の家臣の伝記の中には、こんな愉快的な話も書かれていました。

出典：『校注 本藩名士小伝』高志書院 (文章は古文のまま)



2022年1月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

2022年2月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28					



南部図書館 開館カレンダー



開館時間：午前10時～午後6時

■は休館日です